



TNFDにおける依存・影響の特定に向けて

WWF ジャパン 小池 祐輔  
2025年 3月13日

# 昆明・モントリオール生物多様性枠組(GBF)



2022年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議で採択た

2020年までの国際目標であった愛知目標に代わる、2021年以降の新たな国際目標

「2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復傾向へ向かわせる (halt and reverse biodiversity loss)」

## 1. 生物多様性への脅威の削減

- ターゲット1空間計画の設定
- ターゲット2自然再生
- ターゲット330by30
- ターゲット4種・遺伝子の保全
- ターゲット5生物採取の適正化
- ターゲット6外来種対策
- ターゲット7汚染防止・削減
- ターゲット8気候変動対策

## 2. 持続可能な利用と利益配分を通じて人々のニーズを満たすこと

- ターゲット9野生種の持続可能な利用
- ターゲット10農林漁業の持続的管理
- ターゲット11自然の調節機能の活用
- ターゲット12緑地親水空間の確保
- ターゲット13遺伝資源へのアクセスと利益配分(ABS)

## 3. 実施と主流化のためのツールと解決策

- ターゲット14生物多様性の主流化
- ターゲット15ビジネスの影響評価・開示
- ターゲット16持続可能な消費
- ターゲット17バイオセーフティー
- ターゲット18有害補助金の特定・見直し
- ターゲット19資金の動員
- ターゲット20能力構築、技術移転
- ターゲット21知識へのアクセス強化
- ターゲット22女性、若者及び先住民の参画確保
- ターゲット23ジェンダー平等の確保

## Disclosure - TARGET 15

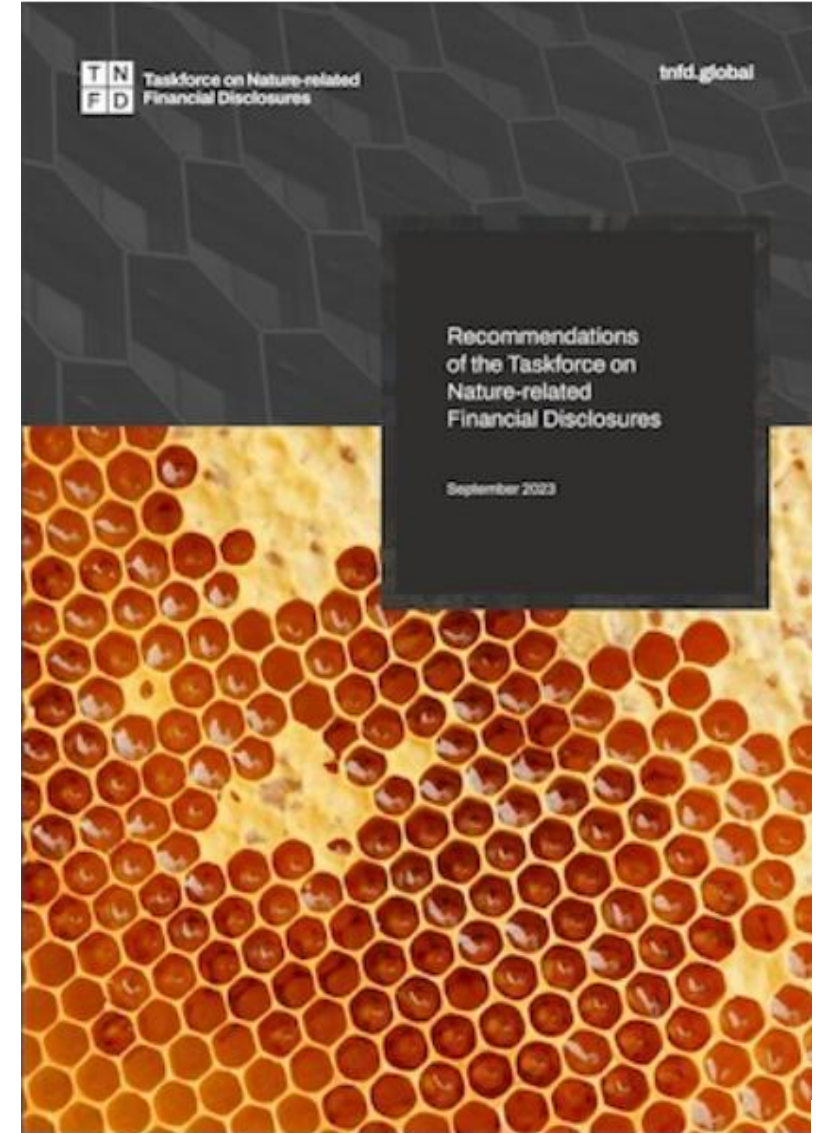
生物多様性への負の影響を徐々に低減し、ビジネス及び金融機関への生物多様性関連リスクを減らすとともに、持続可能な生産様式を確保するための行動を推進するために、ビジネスに対し以下の事項を奨励してできるようにしつつ、特に大企業や多国籍企業、金融機関については確実に行わせるために、法律上、行政上、又は政策上の措置を講じる：

- (a) 生物多様性に係るリスク、生物多様性への依存及び影響を定期的にモニタリングし、評価し、透明性をもって開示すること。すべての大企業並びに多国籍企業、金融機関については、業務、サプライチェーン、バリューチェーン、ポートフォリオにわたって実施することを要件とする；
- (b) 持続可能な消費様式を推進するために消費者に必要な情報を提供すること；
- (c) 該当する場合は、アクセスと利益配分の規則や措置の遵守状況について報告すること。

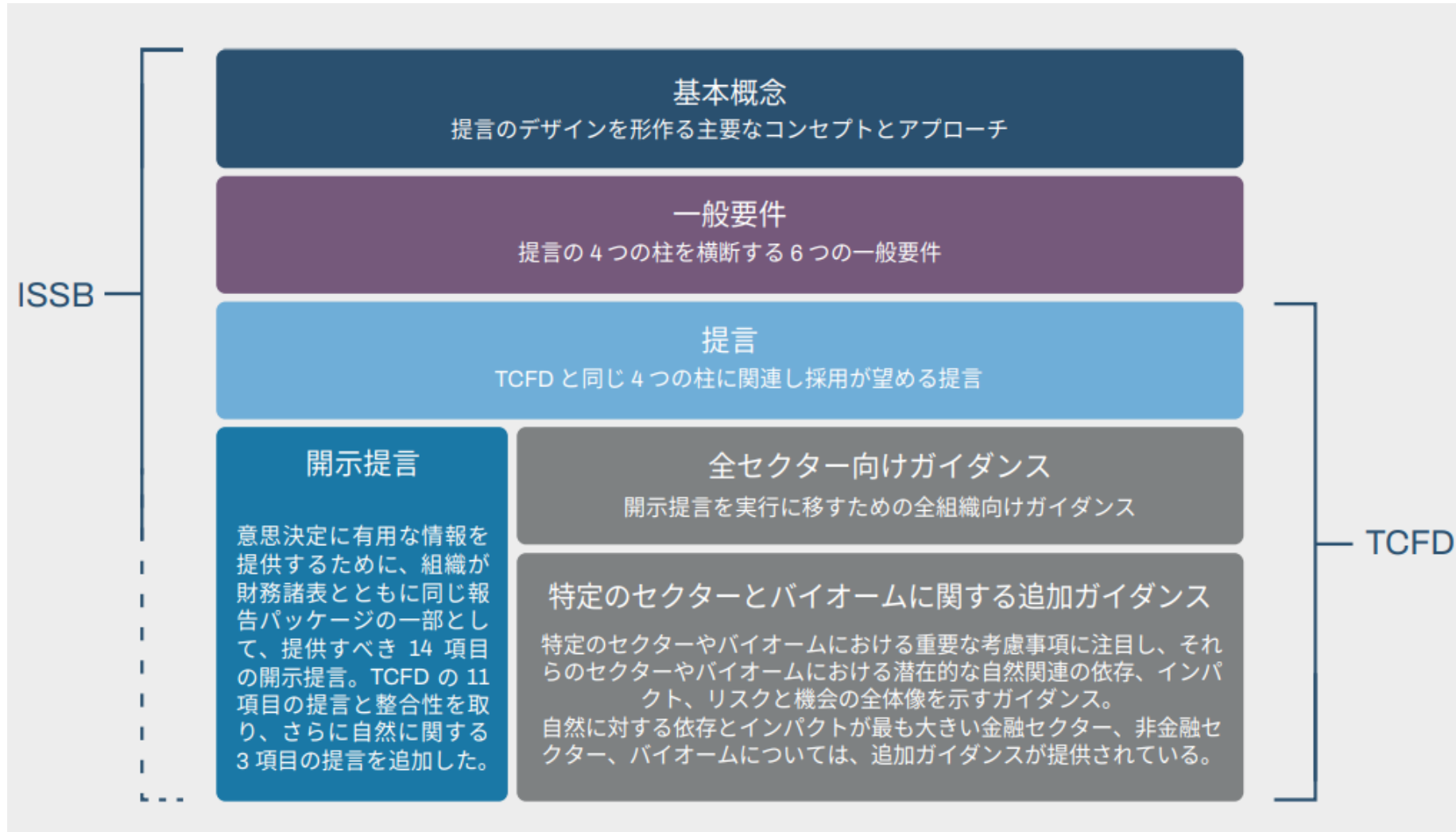
# TNFDの目的



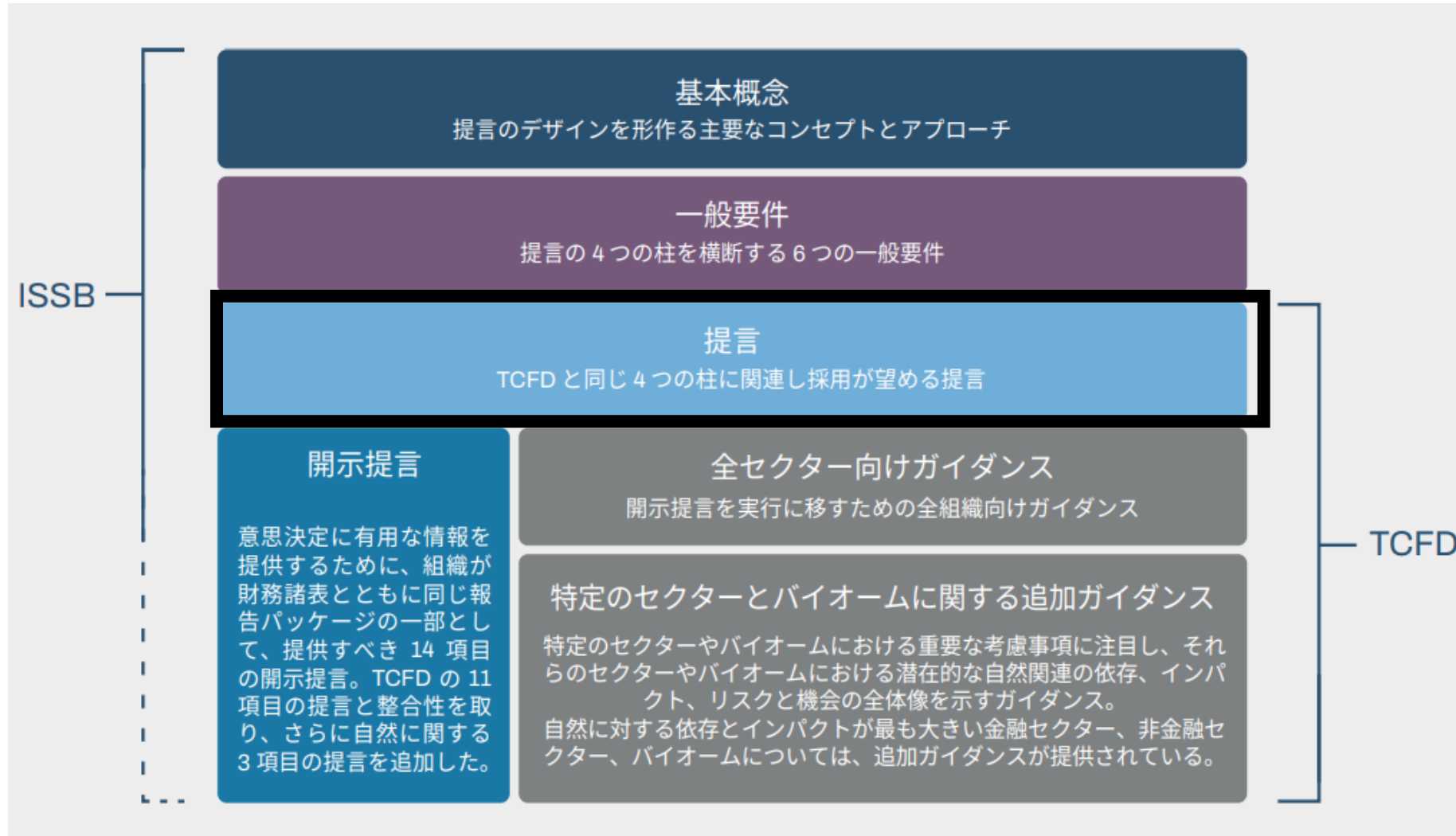
ネイチャーネガティブに向かう金融の流れを  
ネイチャーポジティブに向けての資金の流れ  
に変えるための情報開示フレームの提供



# TNFD の提言のアーキテクチャー



# TNFD の提言のアーキテクチャー



# TNFDの開示推奨内容



## TNFD 開示の内容:

4つの柱

14の開示推奨項目

## 依存・インパクトの分析

「依存、インパクト」  
が含まれる項目

- ・ 4つの柱: 4/4
- ・ 開示推奨項目: 10/14

自然関連の依存・インパクト  
の分析がTNFD開示の要

ガバナンス	戦略	リスクとインパクトの管理	測定指標とターゲット
自然関連の依存、インパクト、リスクと機会の組織によるガバナンスの開示。	自然関連の依存、インパクト、リスクと機会が、組織のビジネスモデル、戦略、財務計画に与えるインパクトについて、そのような情報が重要である場合は開示する。	組織が自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を特定し、評価し、優先順位付けし、監視するために使用しているプロセスを説明する。	マテリアルな自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を評価し、管理するために使用している測定指標とターゲットを開示する。
<b>開示提言</b> A. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会に関する取締役会の監督について説明する。 B. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会の評価と管理における経営者の役割について説明する。 C. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会に対する組織の評価と対応において、先住民族、地域社会、影響を受けるステークホルダー、その他のステークホルダーに関する組織の人権方針とエンゲージメント活動、および取締役会と経営陣による監督について説明する。	<b>開示提言</b> A. 組織が特定した自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を短期、中期、長期ごとに説明する。 B. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会が、組織のビジネスモデル、バリューチェーン、戦略、財務計画に与えたインパクト、および移行計画や分析について説明する。 C. 自然関連のリスクと機会に対する組織の戦略のレジリエンスについて、さまざまなシナリオを考慮して説明する。 D. 組織の直接操業において、および可能な場合は上流と下流のバリューチェーンにおいて、優先地域に関する基準を満たす資産および/または活動がある地域を開示する。	<b>開示提言</b> A(i) 直接操業における自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を特定し、評価し、優先順位付けするための組織のプロセスを説明する。 A(ii) 上流と下流のバリューチェーンにおける自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を特定し、評価し、優先順位付けするための組織のプロセスを説明する。 B. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を管理するための組織のプロセスを説明する。 C. 自然関連リスクの特定、評価、管理のプロセスが、組織全体のリスク管理にどのように組み込まれているかについて説明する。	<b>開示提言</b> A. 組織が戦略およびリスク管理プロセスに沿って、マテリアルな自然関連リスクと機会を評価し、管理するために使用している測定指標を開示する。 B. 自然に対する依存とインパクトを評価し、管理するために組織が使用している測定指標を開示する。 C. 組織が自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を管理するために使用しているターゲットと目標、それらと照合した組織のパフォーマンスを記載する。

## 依存

### ビジネスの継続のために依存している環境や生態系サービス

例：加工食品を扱う会社はパームオイルを利用。パームオイルを利用する企業は、アブラヤシ、受粉に必要な昆虫、加えて降水、流域の水などに依存

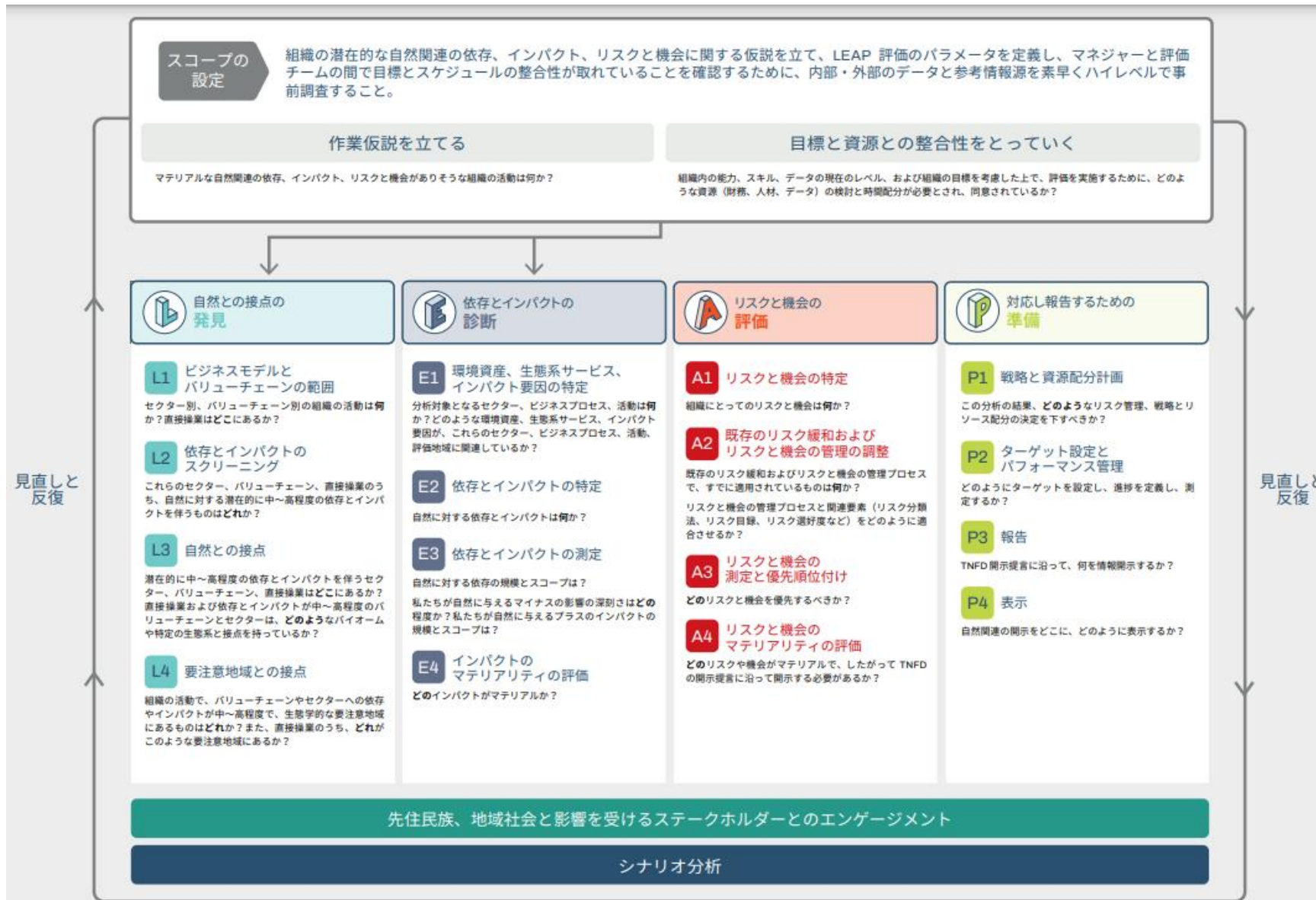
## 影響（インパクト）

### ビジネス活動により変化する自然の状態

例：パームオイルを扱う企業はその生産のために、森林の開拓、水源の枯渇など自然の状態を変化させている可能性がある



# LEAPアプローチ



## 対象業種

- 農産物
- 食肉、鶏肉、乳製品
- 加工食品
- 食品小売
- 流通業者
- レストラン

(セクターガイダンスP.6)

以下のスライド()内のページはFood and Agriculture セクターガイダンスの参照ページ



Additional sector guidance  
**Food and agriculture**

June 2024  
Version 1.0

**SICS\* Industries:**  
Agricultural products (FB-AG)  
Meat, poultry & dairy (FB-MP)  
Processed foods (FB-PF)  
Food retailers & distributors (FB-FR)  
Restaurants (FB-RN)

tnfd.global

**TN** Taskforce on Nature-related  
**FD** Financial Disclosures

## バリューチェーンを通じた依存と影響のスクリーニング (L1、L2)

農畜産品は**生産段階**で自然に依存・影響が大きい

1. 主要な農畜産品のリストを作成（生産・調達しているもの）
2. 森林破壊リスクのあるバリューチェーンを特定  
（参照:SBTNのHigh Impact Commodities List (HICL)、欧州森林破壊防止規則(EUDR)）
3. バリューチェーン上流のマッピング

各業種が、バリューチェーンマッピングする際に含めるべき項目：

加工食品、食品小売・流通、レストラン業界

農産物

肉、家禽（かきん）、乳製品

加工食品および下流産業

肉、家禽、乳製品業界

上記に加え、家畜の飼料もマッピングすべき

(セクターガイダンスP.11-13)

## 自然との接点、要注意地域の特定(L3, L4)

- 農畜産業では農場・農家単位での場所の特定が重要
- サプライヤー農場のGPS座標の特定 (EUDR対応にも)
- 自社バリューチェーン上の要注意地域を確認 (含む直接操業地点)  
(セクターガイダンスP.19-21)

